

2012(第66回)「読書週間」開催についてのお願い

本協議会では恒例の秋の行事「読書週間」を下記の要領により開催いたします。
関係各位におかれましては、期間中およびその前後を通じ、いっそうのご高配により、各種行事をご企画賜り、この運動の実効があがりますよう、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

2012年(平成24年)8月

社団法人 読書推進運動協議会
会長 小峰紀雄

名称 2012 読書週間 または 第66回 読書週間 (併用)
主催 社団法人 読書推進運動協議会
(主要構成7団体=(社)日本書籍出版協会、(社)日本雑誌協会、(社)教科書協会、
(社)日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、(社)日本図書館協会、
(社)全国学校図書館協議会)
後援 文部科学省 (申請中)
期間 2012年(平成24年)10月27日(土)から11月9日(金)まで(文化の日を中心に2週間)
標語 ホントノキズナ

《読書週間行事テーマ》(詳細は別紙)

- 国民すべてに読書をすすめる運動 ●とくに青少年に読書をすすめる運動
- 読書グループの結成促進運動 ●家庭文庫・地域文庫・職場文庫の充実運動

《行事内容》

- ◆「全国優良読書グループ表彰(第45回)」の実施
各都道府県読進協から、地域において5年以上活動し優秀な実績をあげている読書グループ各1団体の推薦を受け、本協議会より賞状と副賞(図書カード2万円)を贈呈
 - ◆野間読書推進賞(第42回)
読書推進運動に功績のあった個人および団体を顕彰。賞状と賞牌、副賞(個人20万円、団体30万円)を贈呈(受賞者数=個人2名以内、団体2団体以内。贈呈式は11月上旬、東京において行う予定)
 - ◆ポスターその他広報文書配布(各報道機関、公共図書館、書店、小・中・高校の学校図書館など)
 - ◆各都道府県読進協へ行事補助金贈呈
 - ◆「読書週間」を表すマークを作成し、期間中およびその前後を通じて、公共図書館などの行事のなかでの使用、出版各社から発行される雑誌および新聞広告などに掲載のお願い
 - ◆「読書週間」期間中およびその前後に出版各社より発行される雑誌に「読書週間」広告掲載のお願い
- 各種機関へのお願いの行事内容——
- 公共図書館、公民館、小・中・高校などにおける「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書・雑誌展示会」「著者をかこむ会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施
 - 各県の読進協・教育委員会などによる都道府県単位の「読書大会」などの開催および「図書・雑誌目録」「読書のすすめ」などパンフレット刊行
 - 出版社による読書普及のための独自の企画推進 ■書店による読書普及活動 ■新聞社・放送局による読書普及の特別記事の掲載ならびにテレビ・ラジオによる番組放送

※「読書週間」についてのお問い合わせは、〒162-0828 東京都新宿区袋町6(日本出版クラブ会館内)
右記へお願いいたします。 社団法人 読書推進運動協議会

☎(03)3260-3071 FAX(03)5229-1560

「読書週間」のテーマについて

「読書週間」のテーマは社団法人 読書推進運動協議会から、構成団体のネットワークを通じて全国に呼びかけられます。

日本図書館協会、各都道府県の読進協、中央図書館を通じて公共図書館や公民館活動へ。全国学校図書館協議会から小・中・高校へ。日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会を通じて書店へ。そして出版社、新聞社、テレビ放送局、そのほか広く出版関連の各業種企業へ。

全国の公共図書館や、多くの出版社、新聞社などでは、年間を通じて読書啓発の事業や行事を行っていますが、伝統的な運動となった「読書週間」ではとくに力を入れた企画を展開します。

また、2005年(平成17年)7月22日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と定められました。これにより、「読書週間」はさらに運動の広がりを見せています。

(1) 国民すべてに読書をすすめる運動

「読書週間」は、読書の楽しさを訴えることで、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただきたいという考えに基づいた運動です。

刺激を受けて書店や図書館で一冊の本を手にとってみる——そんな行動から読書への関心がスタートすると考えています。

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。

(2) とくに青少年に読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」と叫ばれ続けてきました。とくに近年においては、受験戦争に加え、映像・電子メディアなどの発達で、ますます子どもたちの「読書」の時間がせばめられています。しかし、たとえマルチメディア時代になったとしても、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎であり、とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在全国に読書グループは約8,500(読書会、親子文庫、職場、地域単位などのグループ数・8,499＝(株)読進協・2009年3月発行「'08全国読書グループ総覧」)あります。その多くが本好きの人々が集まる任意のグループです。規模や形態、運営の仕方もいろいろです。しかし本に親しみ、読書から有益な人生を築こうという目的は一致しています。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。社団法人 読書推進運動協議会は、読書グループを作り、育てる運動を支援します。

(4) 家庭文庫・地域文庫・職場文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。社団法人 読書推進運動協議会は、家庭にホームライブラリーを、地域にこども会・親子読書会の文庫を作り育てる運動を提唱してきましたが、「読書週間」にあたっては、各都道府県の読進協が中核となって、さらに読書環境充実のための指導・助言を行っていくよう要請をします。

各地域に公共図書館が設立されることとともに、読書グループや家庭・地域文庫が数多く作られることが、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2012（第66回）「読書週間」について

遠く1924年（大正13年）に日本図書館協会によって提唱された「読書週間」の運動（読書の鼓吹・図書文化の普及・良書の推薦）は、幾多の困難と変遷を重ねながらも、図書館界と出版界との協力により16年間にわたり営々として続けられましたが、太平洋戦争のさなか、「一般週間廃止令」なるものによって1942年（昭和17年）にその幕を閉じることになりました。

このような戦前史をもつ「読書週間」は、1947年（昭和22年）、終戦の2年後、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回が開催されました。

そのときのイベントの反響はすばらしく、翌年の第2回からは、文化の日を中心にした2週間と定められ、この運動は全国に広がっていきました。それから半世紀以上、「読書週間」は日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。

そして、今年で第66回を迎えます。

出版関連の各団体はもちろんのこと、全国の公共図書館、公民館、小・中・高校などが、この週間を機会に、読書の普及をより推進するために多彩な運動と、地域に即した行事、広報活動を展開します。

また、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのマスコミ界では、特集記事の掲載、あるいは特別番組の放送などにより「読書週間」を強気に支援しており、その活動は年ごとに活発になってきています。

国民の物質生活の豊かさに比べ、精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性はますます高まっております。

「読書週間」が、国民ひとりひとりの読書への関心と、読書習慣の確立への契機となることを願ってやみません。

今年の標語 **ホントノキズナ**

主催団体

社団法人「読書推進運動協議会（読進協）」について

1947年（昭和22年）、図書館界と出版界の先輩たちによって創始された「読書週間」。その母体である「読書週間実行委員会」が発展的に解消され、1959年（昭和34年）11月10日に結成されたのが「読書推進運動協議会」です。

1969年（昭和44年）10月、社団法人に改組し、責任ある公益団体として、読書の普及を通じて、日本文化の発展のため、よりいっそうの努力をいたしております。

春の「こどもの読書週間」、秋の「読書週間」を主催すると同時に、「雑誌愛読月間（後援）」「敬老の日読書のすすめ」「若い人に贈る読書のすすめ 成人・卒業—新たな一步を踏み出したフレッシュなあなたに」など、年間を通じて読書運動を推進しております。さらに、他団体と協力して、「子どもの読書推進会議」「国際子ども図書館を考える全国連絡会」「学校図書館整備推進会議」の活動を進め、また「ブックスタート」「朝の読書」の推進運動支援にも積極的に参加しています。